

特別展

香のいろは—道具とたどる香文化

2020年4月4日(土)～5月31日(日)

※会期中一部展示替えがあります。

「香^{こう}」という言葉は、「香道」や「香席」を連想させるため、敷居が高いイメージがあるかもしれません。しかし江戸時代の絵画には、寝屋で寝そべりながら香を焚^たいたり、髪の毛に香のかおりを移していたりする様子が描かれており、本来は生活の中で楽しむ日常に根差した文化であったことがわかります。

香道具は、仏を供養するための道具から、かおりを衣服や空間にくゆらせるための道具、数種の香木を聞き分けて遊ぶための道具まで、多彩に展開しています。これらは蒔絵などの技法で美しく飾られ、見るだけでも楽しいものですが、遊び方や道具の役割を理解することで香の魅力をさらに知ることができます。本展では、日本で花開いた香文化を、香道具の使い方を切り口として「いろは」から丁寧に紹介します。



本展ポスター画像

会 期 2020 年 4 月 4 日 (土) ～ 5 月 31 日 (日)

※会期中一部展示替えがあります。

休 館 日 月曜日<4 月 30 日 (木)は展示替えのため休館、5 月 4 日 (月・祝)は開館>

開館時間 午前 10 時～午後 5 時 (入館は午後 4 時 30 分まで)

料 金 一般 1,000(800) 円、高大生 600(400) 円、小中生 300(150) 円

* () 内は前売り (一般のみ)、20 名以上の団体料金

* 前売り券は 4 月 3 日まで、香雪美術館 (御影本館)、中之島香雪美術館、フェスティバルホール・チケットセンターで販売しています。

主 催 公益財団法人香雪美術館、朝日新聞社

協 力 香老舗 松栄堂

※全作品 53 件のカラー図版と解説を収録した図録 2,100 円 (税込) をミュージアムショップで販売。

◆本展は「香のいろは」にちなみ、「い」「ろ」「は」「に」「ほ」の5章で構成されます。

い いろいろな香道具

多彩に展開する香道具を「献ずる」「まとう」「ととのえる」「おさめる」と、使用する目的ごとに分類し、多彩に展開する色とりどりの香道具を紹介します。



㊦「松山水蒔絵香割道具箱」(江戸時代 18世紀) 村山コレクション



㊧「牡丹唐草蒔絵伏籠」
「木瓜三引両紋散花蒔絵阿古陀香炉」
(江戸時代 17世紀) 京都国立博物館



㊨「氷裂文梅花透吊香炉」
(江戸時代 19世紀)
香文化資料室 松栄堂 松寿文庫

ろ 朗笑しつつ香を聞く

香のかおりを嗅ぐことを、香の世界では「聞く」といいます。江戸時代の絵画には、香を聞いたのしむ人々が描かれ、朗らかな笑みを浮かべています。



㊩菱川師直「美人焚香図」(江戸時代 17世紀) 村山コレクション



㊪伝菱川師宣「美人聞香図」(江戸時代 17世紀) 香文化資料室 松栄堂 松寿文庫

は はじまりは沈香

かおりの源となるのは、自然の素材です。ここでは、古より使用されてきた伝統的な香料と、大切に伝えられてきた香木の一例を紹介します。



㊫「香木 銘 小倉山」村山コレクション



付属香包

に おいであそぶ

数種類の香木を組み合わせ、それぞれのかおりを聞いてその違いを当てる「^{くみこう}組香」とよばれる遊戯で使用される道具を紹介します。



㊦「吉野蒔絵三組盤」(江戸時代 18～19世紀)
京都国立博物館



㊦「沢瀉紋散山水花鳥蒔絵十種香箱」(江戸時代 18～19世紀)個人蔵

ほ ほかにない香道具と婚礼調度の香道具

村山コレクションの香簞笥は、本展開催のきっかけともなった、大型で珍しい器形をした他に類例を見ない香道具です。婚礼調度として特別にしつらえた香道具とともに紹介します。



㊦「若松桜梅散蒔絵香簞笥」(江戸～明治時代 18～19世紀)村山コレクション



㊦「丸隅立四ツ目紋散柳海棠蒔絵香枕」
(江戸時代 17～18世紀)洛東遺芳館



㊦「九曜紋散源氏物語蒔絵匂箱」(江戸時代 18世紀)大阪市立美術館
【後期5月1日～】



㊦「丸隅立四ツ目紋柳海棠蒔絵沈箱」
(江戸時代 17～18世紀)洛東遺芳館

主な出展作品

記号	作者・生産地	作 品 名	時 代	所 蔵	展示期間
A		まつさんすいまきえこうわりどうぐばこ 松山水蒔絵香割道具箱	江戸時代 18世紀	村山コレクション	
B		ぼたんからくさまきえふせご 牡丹唐草蒔絵伏籠 もっこみつひきりようもんちらしはなまきえあこだこうろ 木瓜三引両紋散花蒔絵阿古陀香炉	江戸時代 17世紀	京都国立博物館	
C		ひょうれつもんばいかすかしつこうろ 氷裂文梅花透吊香炉	江戸時代 19世紀	香文化資料室 松栄堂 松寿文庫	
D	ひしかわもろなお 菱川師直	びじんふんこうず 美人焚香図	江戸時代 17世紀	村山コレクション	
E	でんひしかわもろのぶ 伝菱川師宣	びじんもんこうず 美人聞香図	江戸時代 17世紀	香文化資料室 松栄堂 松寿文庫	
F		こうぼく めい おぐらやま 香木 銘 小倉山		村山コレクション	
G		よしのまきえみつくみばん 吉野蒔絵三組盤	江戸時代 18～19世紀	京都国立博物館	
H		おもだかもんちらしさんすいかしょうまきえじゆつしゅうこうばこ 沢瀉紋散山水花鳥蒔絵十種香箱	江戸時代 18～19世紀	個人蔵	
I		わかまつきくらうめちらしまきえこうだんす 若松桜梅散蒔絵香簞笥	江戸～明治時代 18～19世紀	村山コレクション	
J		まるにすみだてよつめもんちらしやなぎかいどうまきえこうまくら 丸隅立四ツ目紋散柳海棠蒔絵香枕	江戸時代 17～18世紀	洛東遺芳館	
K		くようもんちらしげんじものがたりまきえにおいぼこ 九曜紋散源氏物語蒔絵匂箱	江戸時代 18世紀	大阪市立美術館	後期 5月1日～
L		まるにすみだてよつめもんちらしやなぎかいどうまきえじんぼこ 丸隅立四ツ目紋柳海棠蒔絵沈箱	江戸時代 17～18世紀	洛東遺芳館	

※ご使用の際は所蔵元の表記をお願いします。

ギャラリートーク

※ギャラリートークは当面の間、開催を見合わせます。

~~開催日 2020年4月18日(土)～~~
~~5月23日(土)～~~

~~開催時間 15時30分～(45分程度)~~
 場 所 中之島香雪美術館展示室内
 参 加 料 無料(入館料は必要です)

夜間特別開館

開 催 日 2020年4月23日(木)
 5月28日(木)

開催時間 ～19時30分(入館は19時まで)
 割 引 フェスティバルシティにお勤めの方、
 社員証提示で200円引き!

記念講演会

こ い け と み お
 小池 富雄さん(鶴見大学 文学部 文化財学科教授)

日 時 2020年5月16日(土) 14時～15時30分(13時30分受付開始)

テ ー マ 「香道具 香りを愉しむ日本人の心」

会 場 中之島会館(中之島香雪美術館隣)

参加料 500円(美術館入館には別途入館券が必要)

定 員 100名

【応募方法】

往復ハガキ(1枚で2名様まで応募可能)に、参加希望人数、それぞれの住所、氏名、年齢、電話番号を明記の上、郵送でご応募ください。返信ハガキの宛先には、代表者の住所氏名をご記入ください。応募者多数の場合は抽選となります。当選者には、返信ハガキで参加証を郵送します。

○宛先：〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-4 中之島フェスティバルタワー・ウエスト4階
 中之島香雪美術館「香のいろは」展 講演会係

○締切：2020年4月28日(火) 消印有効



美に寄せる想い——村山龍平記念室（常設展示）

中之島香雪美術館では、村山龍平^{むらやま りょうへい}の生涯を紹介する常設展示「村山龍平記念室」を設けています。村山の足跡を大型年表や解説パネル、映像などでたどるほか、貴重な展示品や再現展示をおりませ、村山の美への想いを立体的に感じとれる構成となっています。

みどころは、神戸・御影の香雪美術館本館敷地内にある「旧村山家住宅」紹介コーナー。洋館、和館、茶室棟^{げん だん}（玄庵）などの建物と庭園からなる広大な邸宅は、有力財界人が住まう関西屈指の高級住宅地として発展した御影にあって、明治・大正時代の姿をいまなおとどめる貴重な作例として、国の重要文化財に指定されています。

洋館^{かわい いく じ}の河合幾次、和館書院棟^{ふじ い こう じ}の藤井厚二ら、当時屈指の建築家が腕を振るった建物には、施主である村山自身の意向も随所に色濃く反映され、美を愛した村山の姿を彷彿とさせます。常設展示では、全景ジオラマ模型や映像で邸宅の全容を紹介するほか、洋館2階の居間を再現展示。豪壮な洋室に竹をあしらった和風意匠の家具・調度を置くというユニークな空間構成は、村山の好みによるものでしょう。洋館の内装全体を担当した小林義雄^{こばやし よし お}は、日本のインテリアデザイナーの草分けとして知られ、1階食堂の椅子の背に貼られた「MADE EXPRESSLY BY YOSHIO KOBAYASHI（小林義雄謹製）」のプレートからは、小林にとっても特別な仕事であったことがうかがえます。



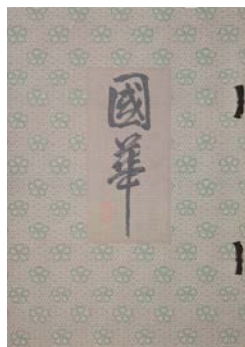
村山龍平



旧村山家住宅



村山龍平記念室 洋館2階居間の再現



国華 創刊号表紙

村山龍平と美術との関わりでは、『国華』特集展示コーナーも見逃せません。明治22年（1889）、岡倉天心らが創刊した『国華』は、現在も刊行を続ける美術雑誌として世界最古の歴史を誇ります。「夫^こレ美術ハ國ノ精華ナリ」と日本美術の復興を目指し、精巧な木版口絵や最先端のコロタイプ印刷を贅沢に使用した雑誌でしたが、すぐに行き詰まり、朝日新聞社の共同経営者で東洋美術への造詣の深い村山龍平と上野理一が全面的に経営支援することとなりました。ことに村山の『国華』への愛着は深く、新たに収集した美術品は同誌上でたびたび紹介されており、開館記念展でもその一部を展示します。

中之島玄庵～再現プロジェクト～

中之島香雪美術館の茶室展示室である「中之島玄庵」^{なか の しま げん なん}は、旧村山家住宅(神戸・御影)に建つ国指定重要文化財の茶室「玄庵」を、原寸大で正確に再現してあります。茅葺き屋根、土壁、柱など、本物と同じ材料を使い、伝統的な技法で造りました。建物の周りの「露地」についても、できる限り忠実に仕上げています。

御影の「玄庵」はもともと、藪内流家元の茶室「燕庵」^{えん なん}(重要文化財)の忠実な「写し」です。茶の湯の世界では、この関係を「本歌」と「写し」と呼び、家元の相伝にかかわる厳粛な行為です。さらにその「写し」である中之島玄庵もまた、古田織部好み^{ふる た おり べ}の様式を伝える貴重な茶室建築といえます。

展示にあたっては、茶室正面の土壁部分を取り外せるように造作しており、本来、外部からはうかがいにくい茶室内部の空間を、見やすく工夫しています。古田織部好み^{ふる た おり べ}の三畳台目^{さん じょう だい め}に相伴席^{しょう ばん せき}の付いた間取り、十一カ所ある明かり取りの窓、三十種類余りの天然の木材など、この茶室に凝縮した茶の湯の美意識が、手に取るように感じられます。

また、茶室を囲む壁面上部には、御影の四季の風景をCG加工した映像を映し出し、自然の移ろいの中で変化する茶室の様子を楽しんでいただけます。

この再現プロジェクトは、京都伝統建築技術協会理事長で京都工芸繊維大学名誉教授の中村昌生氏^{なか むら まさ お}が設計・監修し、元禄年間創業^{げん ろく ねん ぐわん ぐわん}の安井奎工務店^{やす い けい}が建てました。露地は中根庭園研究所が監修しています。「玄庵」の実測調査から材料の選定・加工、組み立てにはじまり、茅葺き、土壁の仕上げなど、プロジェクトの過程を紹介する映像も展示室で見られます。



茶室「中之島玄庵」



茶室「中之島玄庵」内部

FAX: 06-6210-4190

取材・写真使用申込書

中之島 香雪美術館
Nakanoshima Kosetsu Museum of Art

(西暦) 年 月 日

取材について

取 材 者	フリガナ	フリガナ
	会社名	担当者名(連絡者)
	住所 〒	TEL
		FAX
	E-mail	取材人数 名
取材希望日時	(西暦) 年 月 日 時 分 ~ 時 分	
媒 体	種別 ☐ テレビ ☐ ラジオ ☐ 新聞 ☐ 雑誌 ☐ その他()	
	番組名・コーナー名	
放送・発行日等	(西暦) 年 月 日 時 分 ~ 時 分	
取材の範囲	☐ する (撮影機材 ☐ スチール ☐ ENG ☐ DVC) ☐ しない	
備 考 特に取材したい場所・内容等		

写真使用について

プレス用写真一覧をご確認の上、希望画像番号をご明記ください。

作 品 画 像	中之島香雪美術館 館 内 画 像
中之島香雪美術館 資 料 画 像	ロ ゴ 画 像

注 意 事 項	企画書など概要がわかる書類の提出をお願いいたします。 原稿および記事については貴メディアへ御掲載前に中之島香雪美術館広報担当宛に確認のため お送りくださいますようお願いいたします。掲載後は掲載誌等の送付をお願いしております。
申 込 先	「中之島香雪美術館」 広報担当 TEL 06-6210-3633 FAX 06-6210-4190 Email n-kouhou@kosetsu-museum.or.jp 〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-4 中之島フェスティバルタワー・ウエスト 4階